

県内の小麦は、平年より早く開花期に達する見込みです。
赤かび病の薬剤防除は、開花期に確実に実施しましょう。
なお、曇雨天が続く場合は、追加防除を実施しましょう。

現在の状況

- 1 5月11日現在、小麦作況圃（北上市）では、平年よりやや早く出穂期をむかえており、概ね8～10日後には開花期をむかえると予想される（表1）。

表1 小麦の生育状況（岩手県農業研究センター（北上市））

品種	出穂期			開花期		
	R2	平年	R1	R2	平年	R1
ナンブコムギ	5/10	5/15	5/13	(5/18～5/20頃)	5/23	5/20
ゆきちから	5/10	5/13	5/14	(5/18～5/21頃)	5/23	5/22

※（ ）は今後の気温が平年並に推移した場合の予想

防除対策

- 赤かび病菌は開花した穂に感染する。このため開花始期～開花盛期の防除が最も効果的である。
- 表2に基づき適期に薬剤防除を実施する。特に、「ゆきちから」（赤かび病抵抗性「やや弱」）では、開花期とその7～10日後の2回防除を徹底する。
- 向こう一か月（5/9～6/8）の平均気温は、高い見込みであり、さらに開花が早まる可能性があるため、開花期の防除が遅れないように注意する。
- 開花期以降、25℃付近で曇雨天が続く場合には、表2の必須に加え、その7～10日後に追加防除を実施する。
- 成熟する前で穂が緑色の時期は、罹病穂を識別しやすいので、この時期に抜き穂を行い、赤かび粒の混入回避に努める。
- 耐性菌を生じさせないため、同一薬剤は年1回の使用とする。

表2 小麦品種別の防除適期

品種名	赤かび病抵抗性	防除適期		
		1回目散布	2回目散布	3回目散布
		開花期	1回目散布の7～10日後	2回目散布の7～10日後
ナンブコムギ 銀河のちから	中	必須	状況に応じて追加散布	—
ゆきちから	やや弱	必須	必須	状況に応じて追加散布

【利用上の注意】

- ・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・農薬使用の際には、(1)使用基準の遵守(2)飛散防止(3)防除実績の記帳 を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <https://i-agri.net/Index/gate003>